

# もはや外国に学ぶものはないのだろうか

理事長 竹内 和利

1994年 インディアナポリス

去る6月9日、東京にて平成24年度総会を開催致したところ、例年のごとく出席者は少数でしたが、委任状、議決権行使などにより総会は成立し、前年度事業報告、決算報告はじめ、新年度事業計画案、予算案および定款変更案、役員改選など、諸議案を審議の末ご承認いただくことが出来ました。ここに会員各位にご報告とともに感謝を申し上げます。

なお総会の議案として定款附則により本年6月末で任期満了となる全役員の改選をご審議頂いた結果、重任が承認されました。こんごとも皆さまの尚一層のご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

ところで、すでにお届けした総会資料でご説明しているところですが、平成24年度事業について、少し補足させて頂き、加えて思うところを述べさせて頂きます。

## (1) 講演会の開催（平成24年11月25日予定、『国際化と日本人』〔仮題〕於京都市）

昨年、NPO法人設立を記念して、京都と東京で二回にわたり講演会を開きました。この催しについて事前にCIFジャパンのパンフレットの配布、福祉系新聞やインターネット・サイトへのPRなど、以前より広範囲にPR活動を行いました。会への聴衆は少ないでしたが、ことしも地道に開催を続けたいと考えます。

## (2) 外国からの研修者受入れによる交換研修事業

実施に向けての検討はこれからですが、「先ずは一人からでも外国の研修者を受入れてみては」、という声もあります。また外国の或る担当者に訊ねると「国外から研修者を迎えるのは、なかなか楽しいものですよ」と気楽な答えが聞かれます。あまり難しく考えすぎない方がよいのかも知れません。どのような計画の下に実施するか、今年から検討を始めたいと思いますので、様々なご提案をお寄せ下さるよう各位にお願いします。

## (3) 国際研修参加者の募集に関して

国際研修参加者は、一昨年1名〔スコットランド〕でしたが、昨年は問い合わせ、面接などあったものの、参加者はゼロに終わりました。そこで考えるのですが、

### ①外国語のハードル

対人サービス従事者は現地での外国語（主に英語）の使用に自信がもてず、研修参加に消極的なのではないか。先頃の総会でひとりの出席者から、東京と京都でCIFジャパンが志望者に英語錬成を行っては、というご提言がありました。会員各位のご助力を仰ぎたいところです。近頃、「福祉英語検定」を標榜する会社も現れました。またCIPUSAでは、従来からのプログラムとは別に、英語を第2言語とする外国人に、2週間程度の語学研修プログラムをホームステイ付で年1回実施しています。

これらについてのPRも行いたいと考えます。

## ②外国に学ぶということについて・・・もはや外国〔欧米〕に学ぶものはないのか？

わが国は昔から外国に学ぶことに官民挙げて精励し、たとえ“世界一模倣の上手な国民”と揶揄されても、めげずに好奇心の旺盛ぶりを結果に残してきたと思います。戦後、民主主義は米国、議会主義は英国、社会主義はソ連、社会福祉は北欧と、お手本とする理想や理念は海外に多く求められました。ことほど左様に外国頼みであったわが国が、戦後あらゆる領域で自信を深め、もはや外国に求めるものは何もないかのように関心を閉ざしているのが窺えます。これは日本人の米国大学留学生が減っていることばかりでなく、現地に行かなくてもインターネットで用は足りるという人びとの会話の中にも現れています。もう外国（欧米）に学ぶものはないという風潮は、或る意味で日本の伝統に棹をさす態度ではないでしょうか。それともインターネットなどを過信して、世界各地の人びとの存在や文化の厚みを軽く見ているからではないでしょうか。

他方、そのような風潮に首を傾げながら眼を転じますと、国内にいろいろ新しい外国のアイデアが実現しているのを知ります。例えば、さる6月大阪府堺市で開かれたソーシャル・ファーム(Social Firm)についての国際シンポジウムに参加し、それが20世紀後半にイタリア起源の社会的企業のひとつであり、就労困難者が収益を得て消費者向けサービス提供に従事するソーシャル・インクルージョンの試みだと初めて知りました。現在ドイツ、イギリスを中心にソーシャル・ファームは発展しており、わが国にも既に同種企業が立ち上がりつつあると知り、内容に新鮮さを感じました。

また先ごろ新聞紙上で、学童が放課後過ごす「アフタースクール」を運営するNPOの活動を初めて知りました。はやりの学習塾かと思えばそうではなく、東京の或る「スクール」では放課後、30～40人の生徒が地域の6、7人のスタッフと共に、毎日2、3種類のプログラムに取り組み、その中には家を建てるプログラムまであるそうです。これは「コミュニティ・ラーニング」という米国の実践から学ばれた、学校と地域が一体となる取り組みです。このNPOの関係者は最近米国で現地視察を行われたそうです。

他にも現今社会ニーズに対処する様々な試みが次々と諸外国から学ばれ、或いは既に実践されていることでしょう。切迫した社会の要請が真の友たる友を呼び求め、実効ある友が彼の地から見出されることもあるのだと思います。

## ③福祉人材養成の一助として

今年には社会福祉士及び介護福祉士法制度制定から25年目を迎えます。制度制定当時と25年後の今日とでは、社会はかなり変貌を遂げています。時代の要請に対して、社会福祉士、介護福祉士には、新たな知識・技量が求められ、既存のシステムでは充足できない新たな要請に対処する実践能力が求められています。わが国でも、対人社会サービス専門家の養成は、今後さらに重要な課題として取り組まれていくことでしょう。

わたしども、CIFジャパンとしては、対人社会サービス専門従事者が、国際研修参加によって日頃の職場から一定期間離れ、外国で異質の文化体験とさまざまな専門的知見を得られ、時にまた遙か日本の現状を振り返り、帰国後は職場や地域社会によい実践成果をもたらされるよう、責任をもって支援してゆきたいと考えます。

(京都府在住)